組立・施工・取扱説明書

お客様保管用

エバーアートボード 共 通

このたびは、当社商品をご採用いただきまして、誠にありがとうございます。この商品を安全に正しく施工していただくため、この「組立・施工・取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。

安全のために必ずお守りください

ここに示した注意事項は安全に関する最も重要な内容です。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、お守りいただく内容を説明しています。内容をよく理解して本文をお読みください。また、本説明書および当社カタログに記載されている内容に反する施工やご使用をされた場合、保証対象外となります。

安全記号	
警 告	●取り扱いを誤った場合、使用者が死亡もしくは重傷を負う可能性がある危険度が「高い」内容を示しています。
注 意	●取り扱いを誤った場合、使用者が中、軽傷を負う可能性がある内容、または物的損害の可能性があり危険度が「中、軽い」内容を示しています。
一般記号	
ポイント	●組み立て、施工手順で、特に注意して作業を進める必要がある内容を示しています。 ●注意して守っていただかないと、組み立て、施工が困難、あるいは強度不足のため、施工後不具合が発生する可能性がある内容を示しています。

組立・施工上のご注意

警告

●風の強い場所、積雪の多い地域や地盤の弱い場所での施工には、控え柱等の補強が必要です。特に柱の固定を確実に行ってください。転倒など事故の原因となります。
●屋上やがけの上など、商品が落下した場合にケガをする可能性のある高所には設置しないでください。
●取扱説明書に表示している基礎部の埋め込み深さは一般的な場合です。現場の地盤状態に合った基礎部の寸法(体積)にて施工し、安全を確保してください。
●施工時、コンクリート(またはモルタル)には、塩分を含む砂(海砂)や、コンクリート用混和剤(凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など)で塩素系や強アルカリ系のものは、絶対使用しないでください。使用すると、金属部分が腐食し、破損、倒壊の可能性があり危険です。

注意

●組み立て、施工場所の整理整頓、適切な安全確保を行ってください。
高所作業での転落、工具、部品の落下や倒壊の防止、暗所作業時の照度の確保などを必ず行ってください。
●工具、器具、保護具(作業服、保護帽、安全靴、安全帯、その他作業者身体の保護具)などは、安全機能を十分に確認し、正しく使用してください。また不具合のあるものは使用しないでください。
●大型商品は、安全に組み立てるため、施工は2人以上で行ってください。
●組み立て、施工は正しく行わないと危険です。組み立て、施工前に必ず取扱説明書をお読みください。
●必ず取扱説明書に従って正しく施工してください。正しい順序で施工されなかった場合には、商品の強度など性能が低下するほか、倒壊につながる場合があります。
●梱包明細表で必要な部材、部品がすべて揃っているか確かめてから、組み立ててください。
●立てかけると変形の恐れがありますので、平らな場所に水平置きし、保管してください。
●エバーアートボードは、アルミとプラスチックの複合材です。割れにくい素材ですが、衝撃や異物の挟み込みにより、キズやへこみ、エッジの変形が生じる恐れがあります。運搬、保管、加工、施工時、取り扱いには注意してください。
●設置場所に正しく施工でき、不具合なく使用することができることを確認してください。
●給湯、暖房機などの熱排気が商品で妨げられ建物内部にこもったり、適切な換気ができなくなるような場所には設置しないでください。
●給湯、暖房機などの排気熱が直接商品に当たると被膜の劣化、はく離につながります。熱の影響のない場所に設置してください。
●通路など、通行の妨げになる場所には設置しないでください。
●給排水管などの地下埋設物に影響を与えないか位置を確認してから施工してください。
●高台、強風地域、特にがけの上、屋上、風の通り道などへの設置は避けてください。
●風の強い場所では、商品の周囲に十分な空間を確保してください。周囲を囲うと商品に予想以上の風圧がかかり、破損、倒壊の可能性があります。
●水はけの悪いと思われる場所には設置しないでください。
●常に水や温水に触れたり水没する場所、また温泉やそれに類する水質に触れたり水没したりする場所には設置しないでください。
●振動、衝撃のある場所には設置しないでください。商品の破損、倒壊につながります。
●大気中に強い酸やアルカリ成分が多く含まれる場所には設置しないでください。商品の性能が低下する可能性があります。
●アルミ製品は、鉄や銅など(ステンレス以外)の異種金属と直接接触すると、腐食する可能性があります。接触する場合は、ビニールテープを巻くか塗料を塗るなどの処理を行ってください。
●腐食成分(塩素イオンなど)を多く含んでいる輸入木材の併用は避けてください。もし使用される場合は、必ずアルミと接触する部分の木材に塗装するなどの処理を行ってください。
●商品が腐食する可能性のある接着剤や溶剤などの化学薬品に、接することがないように注意してください。
●取扱説明書に表示している基礎部の埋め込み深さは一般的な場合です。
現場の地盤状態に合った基礎部の寸法(基礎体積)にて施工し、安全を確保してください。
●土地の高低にかかわらず、柱の埋め込み深さを十分確保してください。
●組み立て、施工時は、商品にキズがつかないように十分注意してください。

組立・施工上のご注意

⚠ 注意

- ●組み立て、施工用のボルト、ビスは規定本数(当社指定純正品)を確実に締め付け、固定してください。
- ●エバーアートボードの面材はアルミを使用しています。湿潤状態で異種金属と接触すると、電位差により、電食が発生します。接合に使用するリベット、ボルト類の材質は、電食を考慮して選んでください。
- ●エバーアートボードの切断面は、大変危険です。加工、施工時は、保護手袋等を使用してください。
- ●商品にバリがある場合は取り除いてください。特に切り詰めなど現場加工の場合は必ず行ってください。
- ●組み立て、施工時に、雨水がたまらないように十分注意してください。
- ●商品の一点をハンマーで叩いたり、ハシゴをかけるなどして強い衝撃を与えますと破損事故の原因になりますので、絶対しないでください。
- ●商品を異なる材質のものに固定すると温度差により多少伸縮する場合があります。施工時に、商品に必ず大きめの穴をあけて固定してください。
- ●柱の水抜き穴は、モルタルなどで塞がないでください。
- ●組み立て、施工時、商品にコンクリート(またはモルタル)の抽出液が付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性のため、施工後シミ、ムラなどが発生し、外観不良の原因になります。付着した場合は、速やかに水を含ませた布などでふき取ってください。
- ●コンクリートは製品に記載されている配合率や注意事項に従って使用してください。養生期間(4～7日)は十分に確保し、養生期間中は重量物をのせたり、振動させたり、物を立てかけたりはしないでください。
- ●商品に雨水がたまらないように、適切な位置に水抜き穴をあけることをおすすめします。
- ●雨水等の浸入防止のために、必要な箇所には必ずシーリング材を充填してください。
- ●組み立て、施工終了後は、必ず商品が正しく組み立てられているか確認してください。特にボルト、ビスなどにゆるみがないか確認してください。
- ●組み立て、施工終了後は、施工時の汚れをきれいに取り除いてください。
- ●施工後の残材は他の一般廃棄物と区別し、素材別に分けた上で専門業者に処理を委託してください。
- ●構造物、建築物の屋根などからの雪の落下を受けない位置に設置してください。
- ●積雪のある地域では、雪により商品が倒壊しても危険がない場所に設置してください。
- ●凍上する可能性のある寒冷地に設置する場合は、必ず凍上線の下まで基礎部を確保するように施工してください。
- ●寒冷地でご使用になる場合は、柱に水抜き穴をあけて、柱用の穴に柱を立ててから、モルタルを入れてください。モルタルを入れてから柱を立てると、柱の内部に水がたまり、凍結破損の原因になることがあります。
- ●安全を確保するため、組み立て、施工は必ず専門の業者が行ってください。
- ●商品の改造は絶対にしないでください。商品の性能が落ち、強度不足による破損、倒壊の可能性があり危険です。
- ●誤った使用を避けるため、組み立て、施工終了後、必ず取扱説明書はお施主様にお渡しして、取り扱いの注意、メンテナンスについて説明してください。

使用上のご注意

⚠ 警告

- ●アルミ製品は、高温になる場所では他の金属材料に比べて熱による変形が生じやすい材料です。商品の近くで火気を使用しないでください。
- ●運動具やお子様の遊具、踏み台、ふとんや洗濯物を干す等、目的以外の使用は絶対にしないでください。

⚠ 注意

- ●商品の一点をハンマーで叩いたり、ハシゴをかけるなどして強い衝撃、荷重を与えると破損、倒壊事故の原因になります。絶対にしないでください。
- ●無理な荷重をかけないでください。商品の上で飛んだり、跳ねたりしないでください。ぶらさがったり、寄りかかったりしないでください。人が乗ったり、体重をかけたりしないでください。

使用上のご注意

⚠ 注意

- ●局部的に重い物をのせたり、立てかけたり、ぶらさげたりしないでください。ボールなど投げつけたりしないでください。
- ●商品の付近で農薬や殺虫剤などの薬剤を使用する場合は、表面に付着しないようにしてください。表面が変色する恐れがあります。
- ●安全性の高い材料を使用しておりますが健康を害する恐れがありますので、小さなお子様やペットがなめたり、かじったりしないように注意してください。
- ●商品の切り口に切断時のバリが残っている場合や、現場加工にともないささくれが発生する場合があります。手などにケガをしないように、取り扱いには十分注意してください。発見した場合は放置せず、施工店様に連絡してください。
- ●商品を改造したり、穴をあけたり、当社オプション品、付属品以外の取り付けは避けてください。商品の性能が低下する可能性があり危険です。
- ●アルミ製品の表面にキズが付いたり、塗装はがれが生じると、商品の腐食や強度低下の原因になりますので、取り扱いには十分注意してください。
- ●エバーアートボードの熱変形温度は約110℃で、ポリエチレン単体より高くなっています。大きな力がかからない状態で、短時間であれば、100℃程度の高温にも耐えられます。ただし、実用上、高温雰囲気で長時間使用する場合は、70℃程度までで使用してください。
- ●エバーアートボードの面材はアルミを使用しているため、アルミ単板と同様に、腐食が生じます。酸性やアルカリ性の物質(土やモルタル等)に直接接触しないようにしてください。
- ●エバーアートボードの端部が、アルミを侵す環境(海岸部等)におかれる場合は、注意して使用してください。
- ●強い雨の場合、雨水が浸入する可能性がありますので注意してください。
- ●安全のため、定期的に接合部のボルト、ナット、ビス等にゆるみがないか確認して使用してください。ゆるみがあれば締め直しを行ってください。お施主様でできない場合は施工店様に依頼し必ず直してください。
- ●商品が破損したり、グラつく場合は、すぐに施工店様に連絡してください。破損したままで使用していると事故の原因となり危険です。

メンテナンスのご注意

◆汚れの程度と掃除方法

内　容	用　具	方　法
軽い汚れの場合	柔らかい布 スポンジ 水	柔らかい布、スポンジで水ぶきした後、からぶきしてください。
ひどい汚れの場合	柔らかい布 中性洗剤	中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし、洗剤が残らないように水洗いしてください。 その後、からぶきしてください。

◆お手入れのご注意

- ●お手入れには布やスポンジなどの柔らかいものを使用してください。
- ●金属ブラシ、金ベラ、スチールウール、目のあらい紙ヤスリなどは使用しないでください。
- ●小石、砂などが付着したままこすると、アルミ表面にキズが付きます。あらかじめ取り除いてください。
- ●酸性およびアルカリ洗剤、アルコール、ベンジン、アセトンなどの有機溶剤や石油類などは使用しないでください。アルミの腐食、塗膜のはがれ、ツヤ落ちの原因になります。
- ●市販のクリーナーは、成分をよくチェックし、事前に目立たない部分に使用し、塗膜の変化や軟化等がないか確認してください。
- ●安全のため、定期的にガタツキがないか確認してご使用ください。
- ●工業地帯や海岸の近くなどでは、状況によりお手入れの回数を増やしてください。
- ●定期的なお手入れにより、アルミ製品をいつまでも美しく保つことができます。

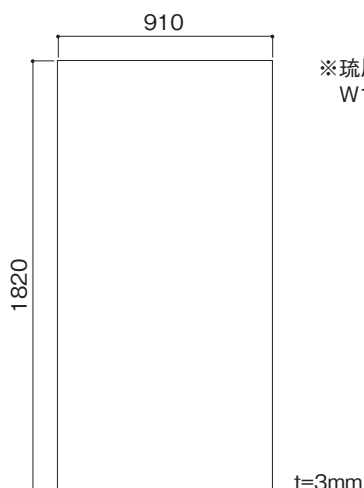
廃棄について

ご不要になった商品、また現場で発生しました残材等につきましては、各地域の条例等に従って正しく処分してください。

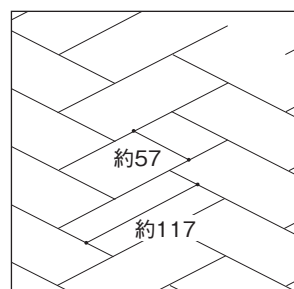
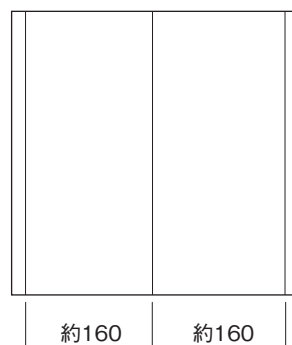
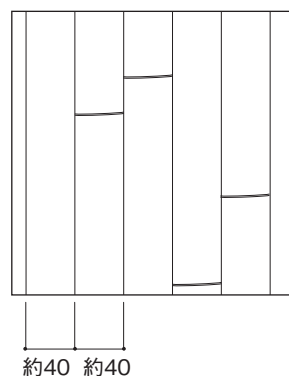
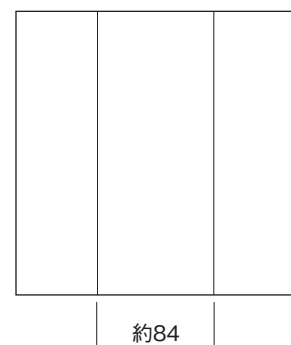
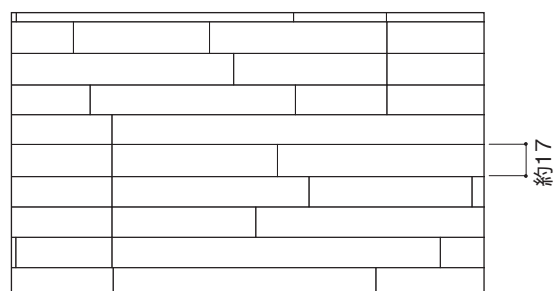
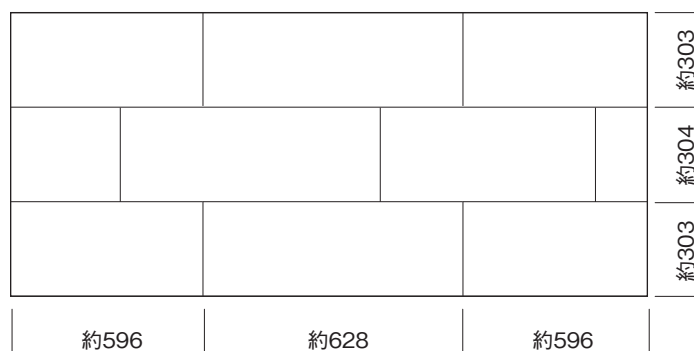
基本寸法

⚠ ご注意

木目調、石目調は柄目、色目がありますので、ご注意ください。デザインに合わせて、施工してください。

■エバーアートボード

※琉川（りゅうせん）2色と石柄は、
W1820×H910mm

■エバーアートボード 柄 詳細

あじろ

墨黒

建仁寺

ジャラ

ランダムストーン

タイルトラバーチン

基本寸法

■エバーアートボードフェンス

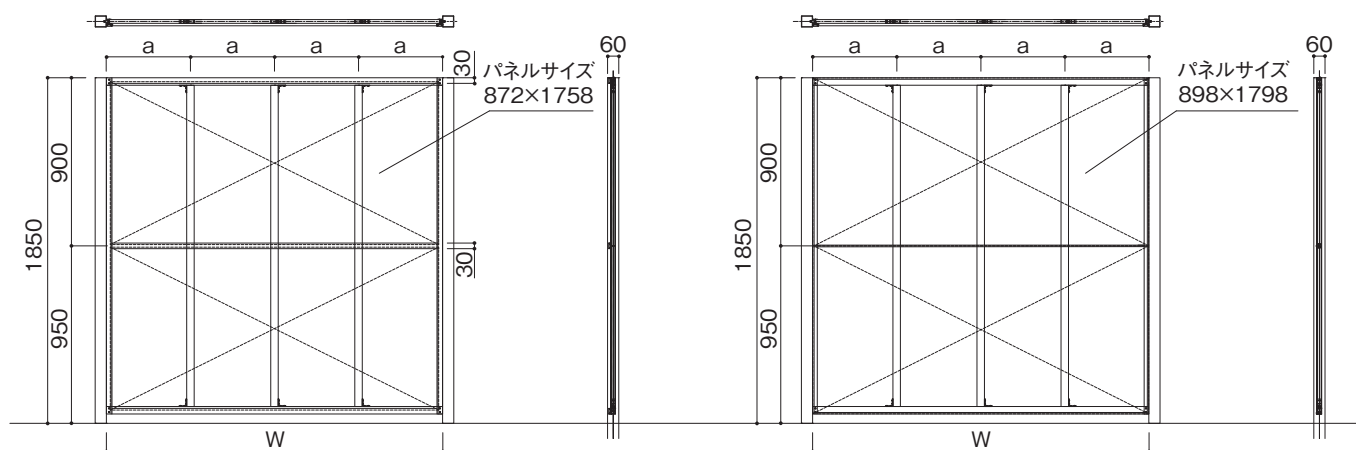
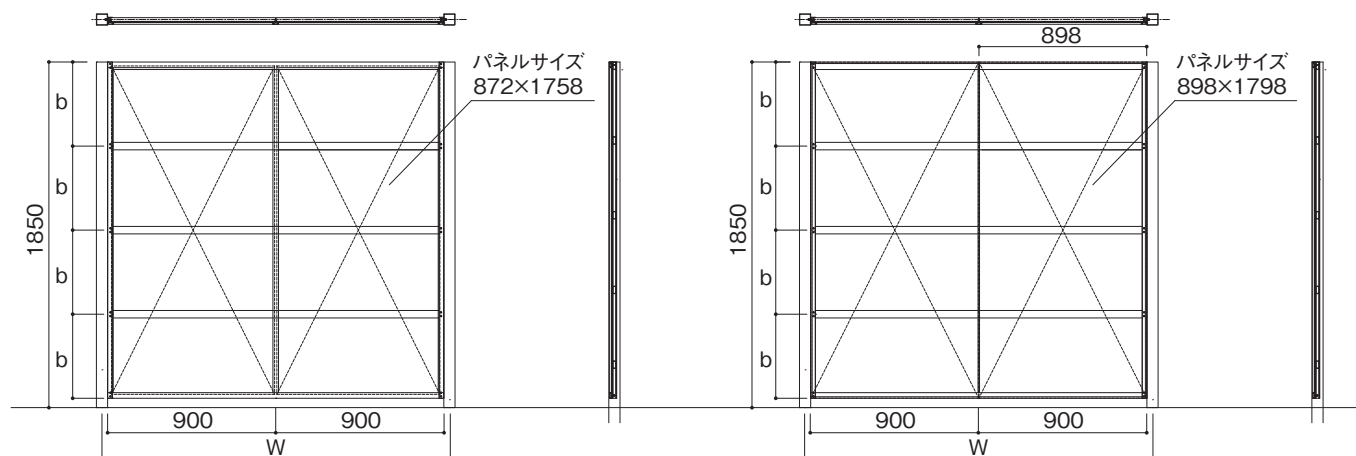
※柱内々にパネルが付く場合　W=1800+柱幅
　柱の正面にパネルが付く場合 W=1800-柱幅

パネル横デザイン

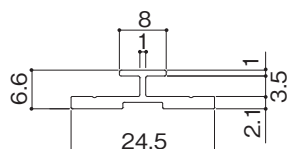
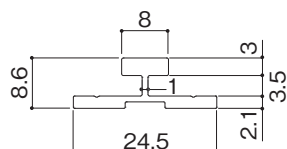
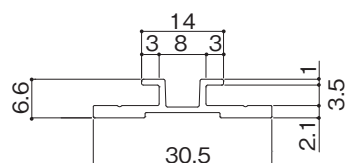
※a≦600

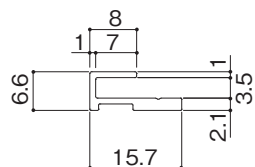
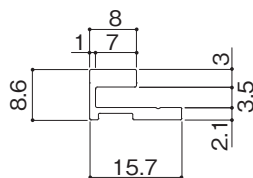
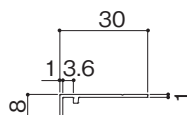
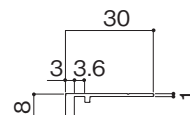
パネル縦デザイン

※b≦600

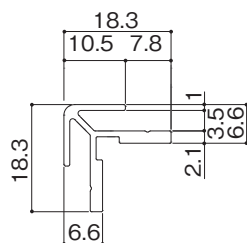
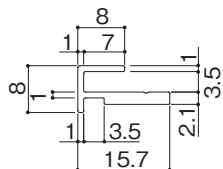
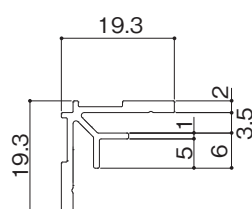
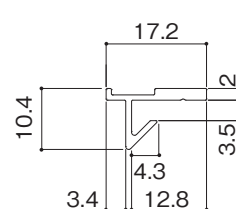
基本寸法

■エバーアートボード ジョイント

L3650mm

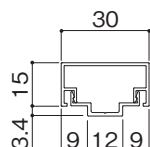
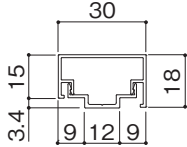
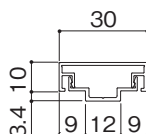
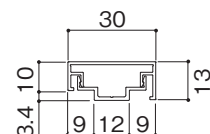
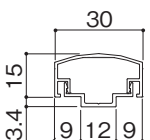
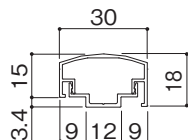
平目地 薄型

■エバーアートボード 見切材

L3650mm

薄型

ロング 薄型

ロング 厚型

■エバーアートボード コーナージョイント

L3650mm

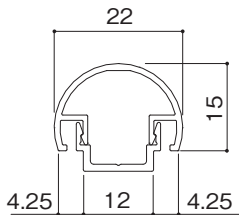
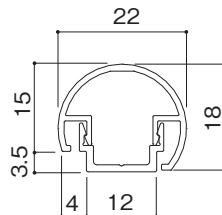
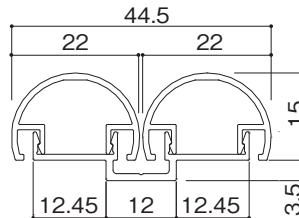
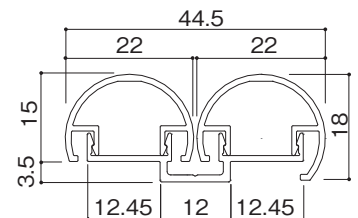
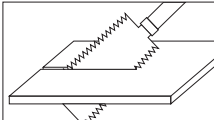
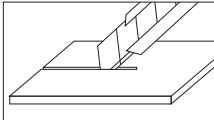
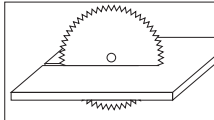
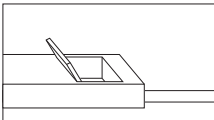
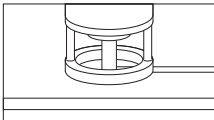
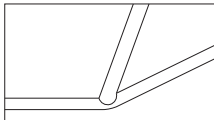
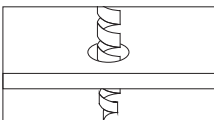
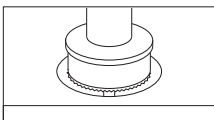
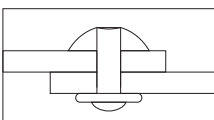
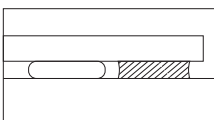
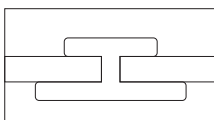
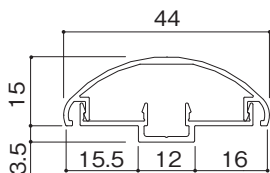
出隅 コーナー

出隅 ジョイナー

入隅 コーナー

入隅 ジョイナー

■エバーアートボード 押え縁

L3650mm

押え縁 30×50 センター

押え縁 30×50 エンド

押え縁 30×10 センター

押え縁 30×10 エンド

押え縁 30×15R センター

押え縁 30×15R エンド

基本寸法

■エバーアートボード 押え縁

L3650mm

丸竹押え縁 1本使い センター

丸竹押え縁 1本使い エンド

丸竹押え縁 2本使い センター

丸竹押え縁 2本使い エンド

押え縁 半割竹 センター

押え縁 半割竹 エンド

加工方法

加 工	使用機械・治具等	備　考
切断	●鋸(金物用、木工用、プラスチック用) ●カッター ●丸鋸 ●ジグソー	——
切削	●かんな ●ハンドトリマー ●CNCルーター ●プレイナー	切削により溝をほった場合は、工具なしで曲げることも可能です。切削をして直角に曲げる場合、各部が3～3.5Rになるように溝をほってください。
穴あけ	●ハンドドリル ●ボール盤 ●ホールソー	——
接合	●リベット ●ボルト ●ビス ●接着剤 ●両面テープ ●ジョイント ●見切材	リベット等で接合を行う場合は、電食等を考慮し材質の選定を行ってください。接着剤を使用する場合は、弾性の接着剤を用い、アルミニウムに有害なものの使用は避けてください。溶接による接合はできません。

施工の前に…

> **⚠ ご注意**
> 木目調、石目調は柄目、色目がありますので、ご注意ください。デザインに合わせて、施工してください。

■下地の確認

施工可能な下地	処理の必要な下地	施工できない下地
・モルタル面（ブロック下地） ・プラスターボード ・ケイ酸カルシウム板	・RC壁　→　モルタル仕上げ	・発泡スチロール ・天然大理石、石材 ・ポリエチレン、ポリプロピレン ・フッ素樹脂

■不陸の確認と調整について（壁面に貼り付ける場合、必ず確認してください）

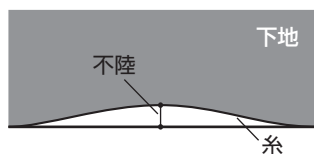
不陸の確認

①タイルなど施工する下地表面の汚れを十分に除去します。

②直定規、下げ振り、レーザーレベル等を使い壁面の水平・垂直の不陸を測定します。

※現下地で施工可能な**最大不陸は5mm未満(目安)**です。
5mmを超える場合は、下地を作製してください。

下地が凹の場合

糸を張り、すき間を測定します。

下地が凸の場合

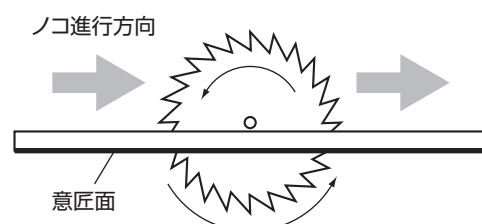
水平な定規をあてがい、すき間を測定します。

【横方向】　【縦方向】

不陸凹

直定規

下げ振り

> **⚠ ご注意**
> 下地材の選定や構造の作製を行う際は、建築基準法、火災予防条例などの法令、法規に適合していることを、必ず確認してください。

不陸の調整

コンクリート、ブロックなどで下地を作り、表面を調整します。
ブロックの場合は、目地を埋めます。

※ブロック、コンクリートとモルタルの定着が悪いとはく離の原因となりますので、ご注意ください。

■切断および穴あけについて

切断は、当て木を用いて、必ず刃物を**意匠面**から入れ、**裏面**から出るように切断します。
穴あけも同様に、意匠面から穴をあけてください。

組立・施工（壁面直貼りの場合）

❶ 不陸の確認と調整 ▶ ❷ アートボードの割り付け ▶ ❸ 仮留めテープ、接着剤の塗布 ▶ ❹ エバーアートボードの貼り付け ▶ ❺ シール処理 ▶ **完成**

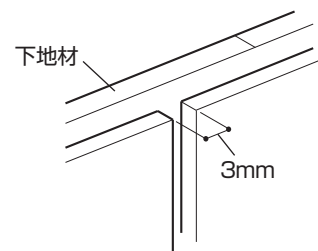
❶ 不陸の確認と調整

P.7「不陸の調整と確認について」を参照し、下地材の不陸を調整します。

※突きつけ施工はできません。
目地は必ず、3mm以上取ってください。

❷ エバーアートボードの割り付け

エバーアートボードを割り付けします。

※切断等の加工については、P.7「切断および穴あけについて」を確認してください。

※下地材がケイ酸カルシウム板の場合、下地材目地とボードの目地が重ならないようにしてください。

❸ 仮留めテープ、接着剤の塗布

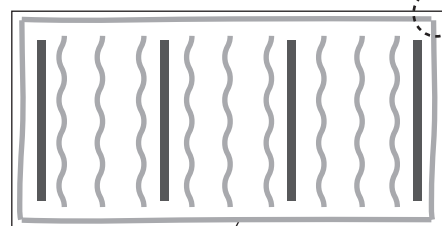
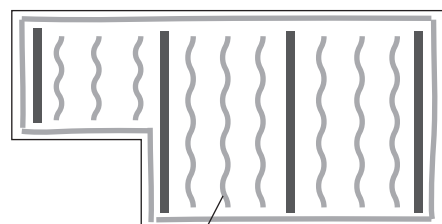
①**エバーアートボード**に**仮留めテープ**を貼り付けます。

※仮留めにはエバーアートボード両面テープ（別売）を使用してください。

②**エバーアートボード**に**接着剤**を塗布します。

※接着にはエバーアートボード接着剤（品番：PM-165R ／別売）を使用してください。

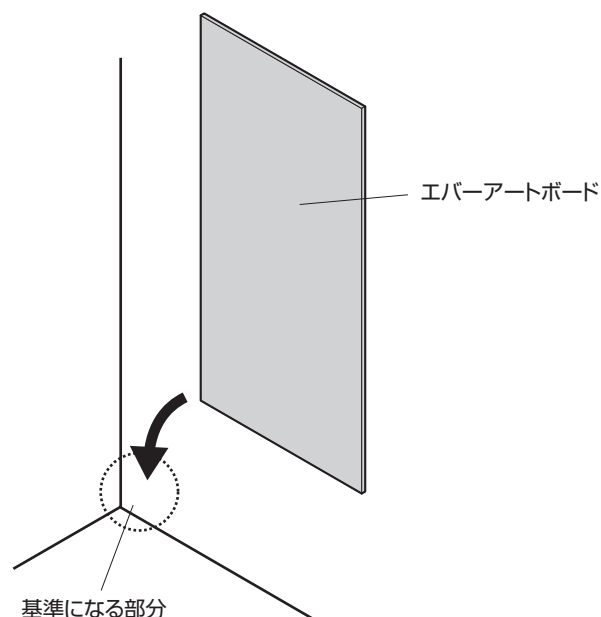
⚠ ご注意

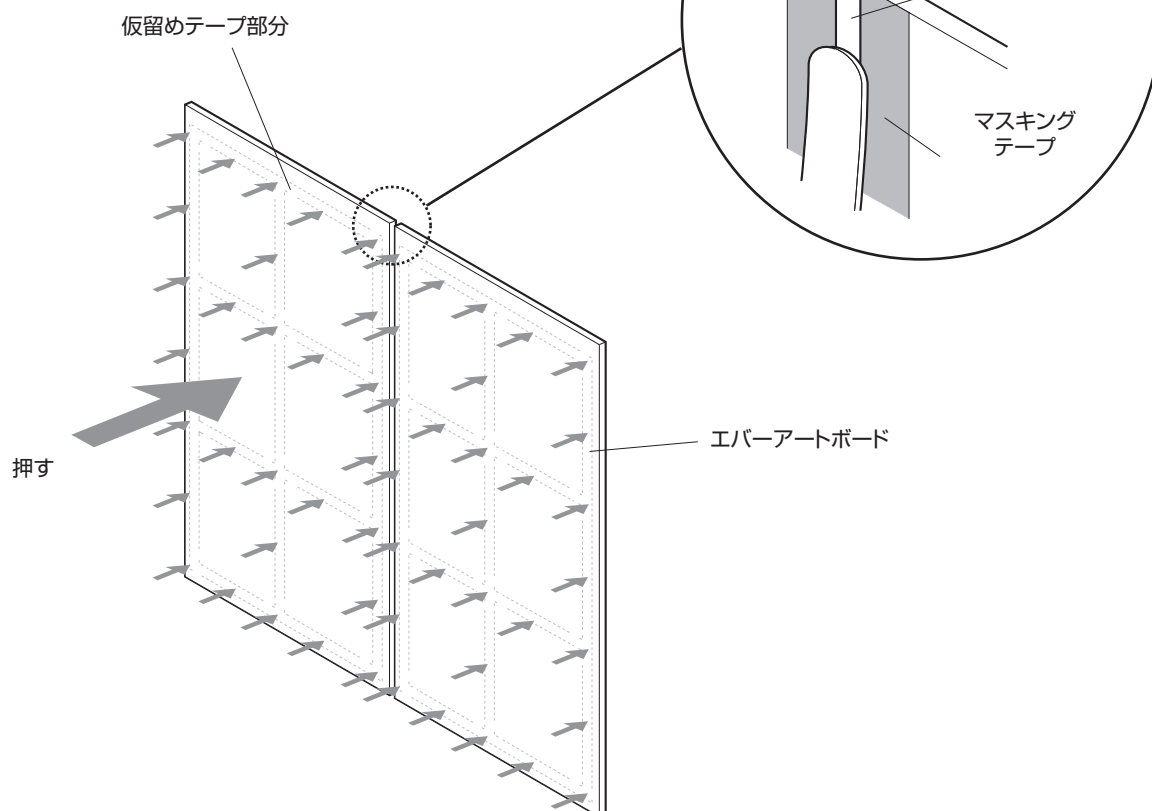
○接着剤は**高さ5mm**、**幅10mm**で塗布してください。
○ボードの外周部は、直線に塗布してください。
○接着剤塗布後**15分以内**に貼り付けてください。
○天端に笠木、見切材を用いるなど、壁面とパネルとのすき間に水が入らないようにしてください。

組立・施工（壁面直貼りの場合）

❹ エバーアートボードの貼り付け

①基準になる部分に**エバーアートボード**を合わせます。
②**仮留めテープ**を押さえるようにして、**エバーアートボード**を貼り付けます。このとき、中央部に浮きが発生しないように、しっかり押さえつけてください。

⚠ ご注意

ボードは、デザインにより上下があります。貼り付け時、デザインの向きに注意してください。

❺ シール処理

①**エバーアートボード**の端部をマスキングテープ（現場手配）で養生し、シールを打ちます。
②余分なシール材を、シールを打つヘラ等でかき取ります。
③シール材が硬化した後、マスキングテープを取り除きます。

組立・施工（見切材、ジョイント、押え縁を使用する場合）

❶ 不陸の確認と調整 ▶ ❷ アートボードの割り付け ▶ ❸ 見切材、押え縁の取り付け（1段目）

▶ ❹ 仮留めテープ、接着剤の塗布（1段目） ▶ ❺ エバーアートボードの貼り付け（1段目）

▶ ❻ ジョイントの取り付け（1段目） ▶ ❼ エバーアートボードの貼り付け（2段目〜） ▶ ❽ エンド部の取り付け

▶ ❾ シール処理 ▶ **完成**

❶ 不陸の確認と調整

P.7「不陸の調整と確認について」を参照し、下地材の不陸を調整します。

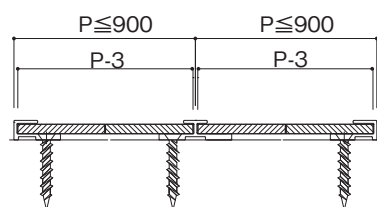
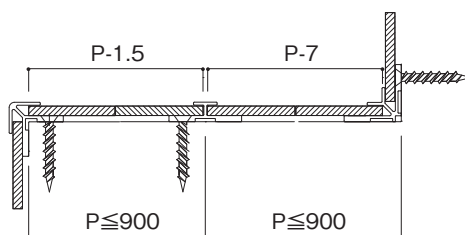
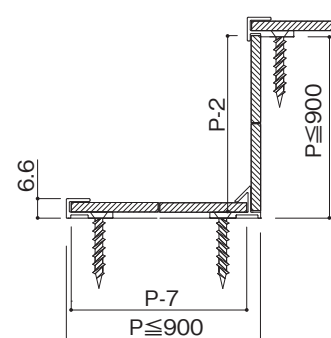
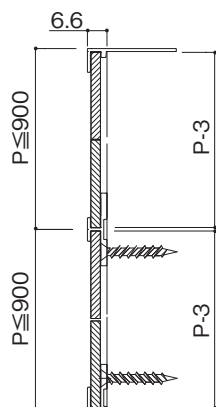
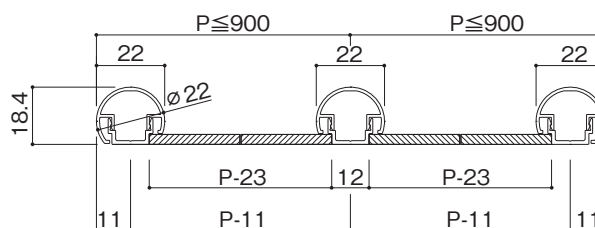
❷ エバーアートボードの割り付け

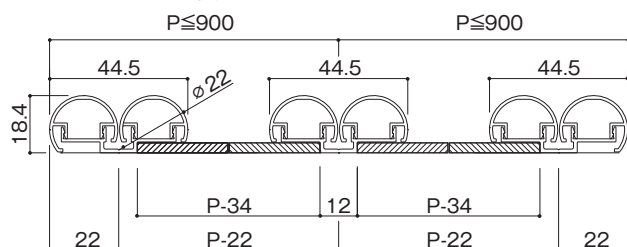
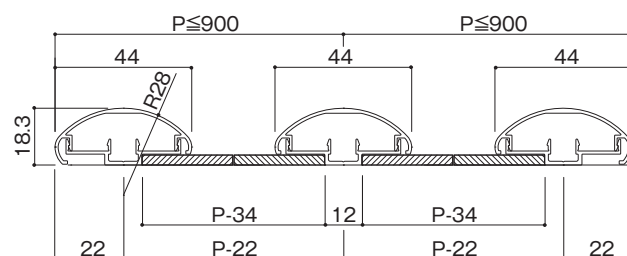
エバーアートボードを図を参考に、割り付けします。
※切断等の加工については、P.7「切断および穴あけについて」を確認してください。

⚠ ご注意
ビスは下地に適したものを用意してください。

●見切材ージョイントー見切材

●出隅コーナーージョイントー入隅コーナー

●見切材ー入隅ジョイナーー出隅ジョイナー

●見切材ロングージョイントー見切材

●丸竹押え縁1本使い

組立・施工（見切材、ジョイント、押え縁を使用する場合）

●丸竹押え縁2本使い

●押え縁半割竹

❸ 見切材、押え縁の取り付け（1段目）

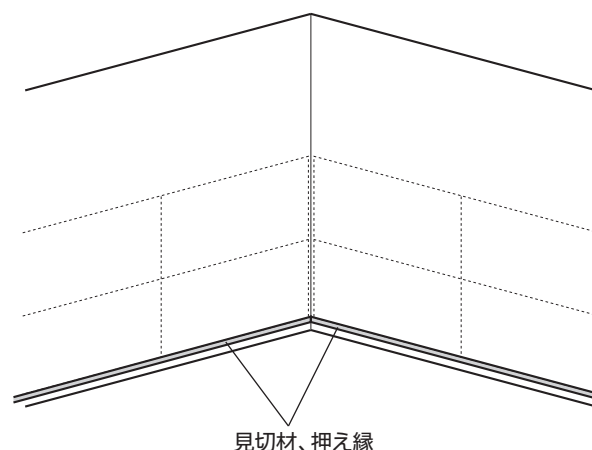
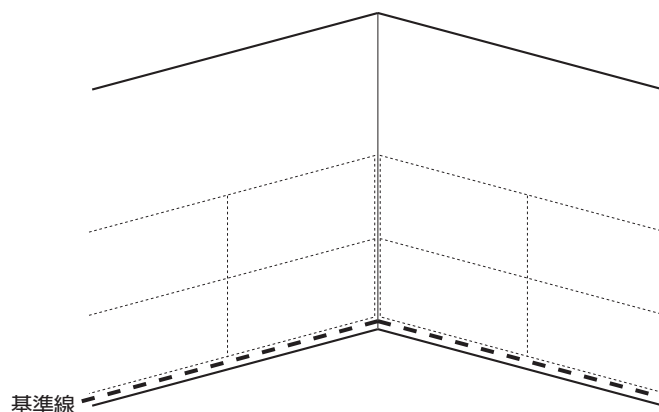
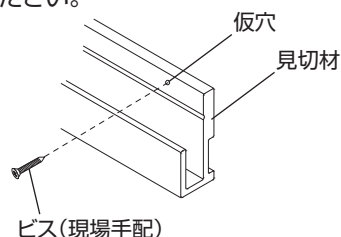
①基準となる位置を墨出しします。合わせて、**エバーアートボード**をデザインに合わせて、配置計画します。

⚠ ご注意

下地の目地部分とボードのジョイント部分が一致するような配置にしないでください。

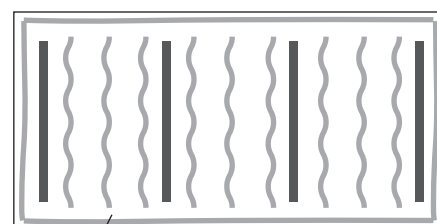
②基準線に合わせ、**見切材**や**押え縁**をビス（現場手配）で固定します。

※ビスは下地に適したものを使用してください。

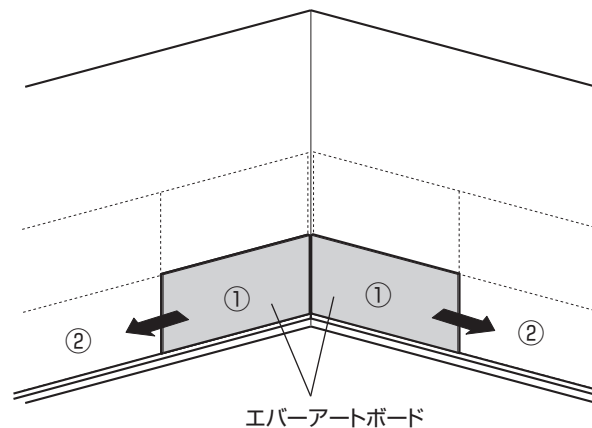
※仮穴をあけてください。

❹ 仮留めテープ、接着剤の塗布（1段目）

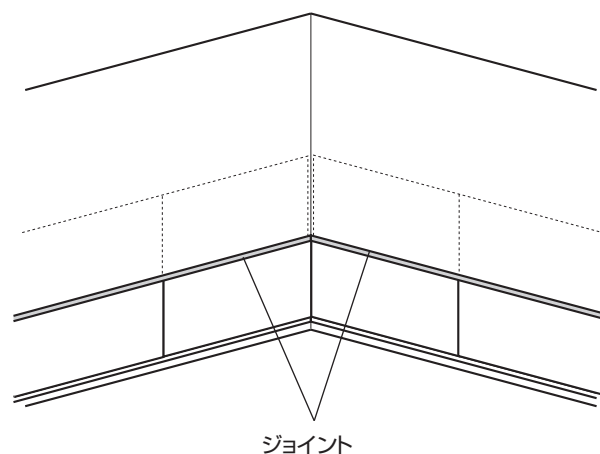
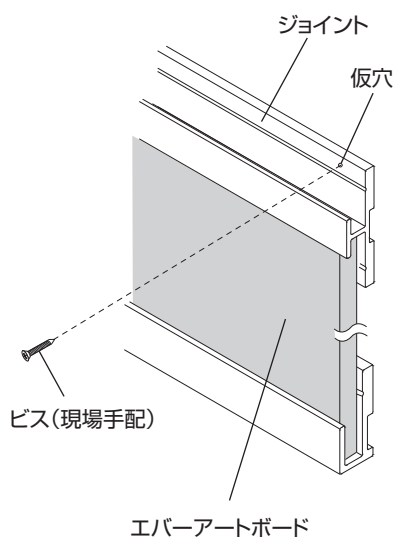
P.8「❸ 仮留めテープ、接着剤の塗布」を参照に、**エバーアートボード**裏面に**仮留めテープ**と**接着剤**を塗ります。

このとき、一度に、ボード全面に塗らないでください。接着剤が乾いてしまうと、ボードの貼り付けができなくなります。接着剤を塗りながら、作業を進めてください。

※基準の位置から塗ってください。

組立・施工（見切材、ジョイント、押え縁を使用する場合）

❺ エバーアートボードの貼り付け（1段目）

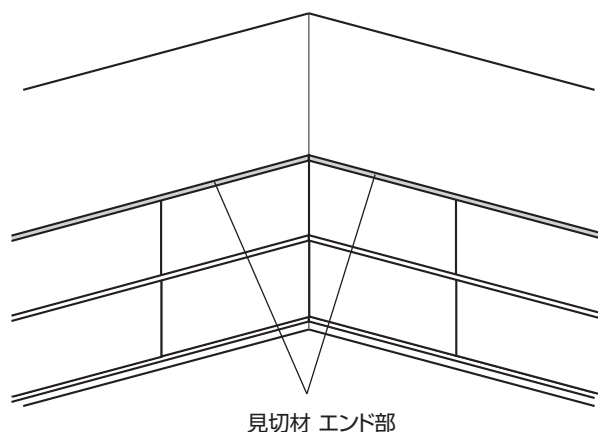
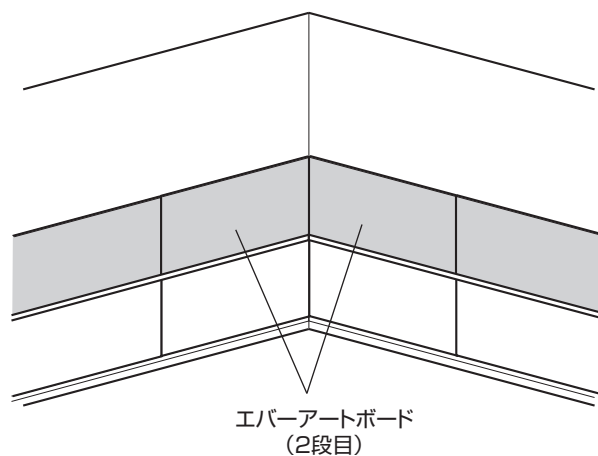
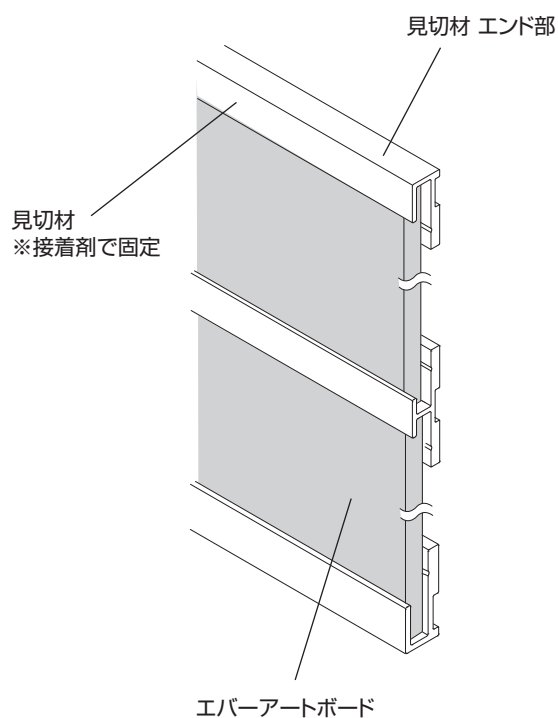
エバーアートボードを、水平方向に①→②の順番で貼り付けます。
※必要に応じて、**仮留めテープ**と**接着剤**を塗ってください。

❻ ジョイントの取り付け（1段目）

エバーアートボード1段目を貼った後、ボード上部に**ジョイント**をはめ込み、ビス（現場手配）で固定します。
※ビスは下地に適したものを使用してください。
※仮穴をあけてください。

組立・施工（見切材、ジョイント、押え縁を使用する場合）

❼ エバーアートボードの貼り付け（2段目～）

目的の位置まで❹❺❻を繰り返します。

❽ エンド部の取り付け

エンド部の**見切材**をパネルと同様に、**仮留めテープ**と**接着剤**で固定します。

❾ シール処理

P.9「❺ シール処理」を参照に、シールを打ちます。

組立・施工（フェンスの場合）

❶ 基礎の施工 ▶ ❷ 柱の設置 ▶ ❸ 胴縁の取り付け ▶ ❹ 見切材、ジョイントの取り付け

▶ ❺ エバーアートボードの取り付け（1枚目） ▶ ❻ ジョイントの取り付け（1枚目）

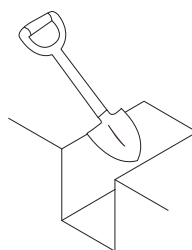
▶ ❼ エバーアートボードの取り付け（2枚目〜） ▶ ❽ エバーアートボードの取り付け（両面貼りの場合）

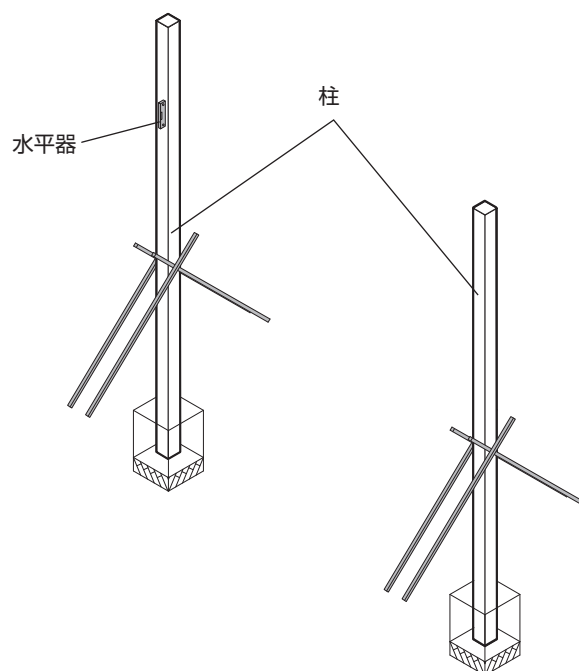
▶ ❾ 端部の納まり ▶ **完成**

❶ 基礎の施工

基本寸法（P.4）を参考に、柱位置に合わせて穴を掘ります。

⚠ ご注意

○基礎の下には必ず割栗石を敷いてください。
○地中には水道管やガス管などさまざまな埋設管があります。施工時は十分にご注意ください。

❷ 柱の設置

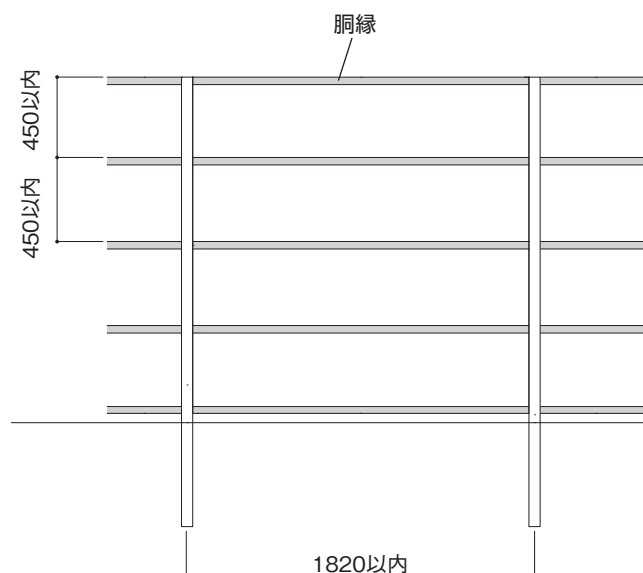
柱位置に合わせて掘った穴に**柱**を立て、仮押さえ用の木材で仮押さえをし、水平器で水平、垂直を確認した後、コンクリートを流し込みます。

組立・施工（フェンスの場合）

❸ 胴縁の取り付け

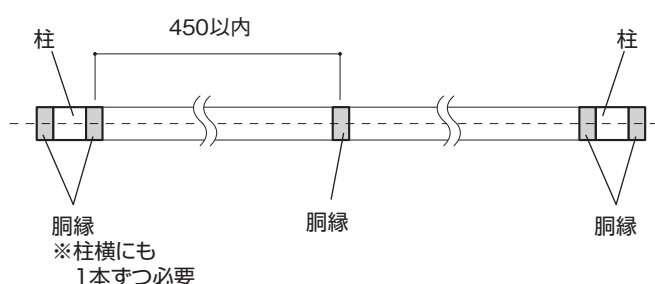
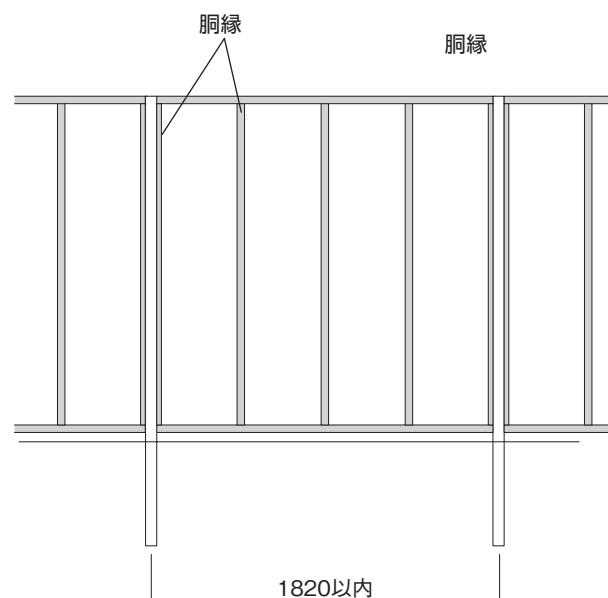
※柱ピッチは最大1820mmとして、高さを考慮して決定てください。
※十分な埋めしろを確保してください。

縦向きボードの場合

アートウッド柄、ジャラ、あじろ、杉皮、さらしひしぎ、
墨板、建仁寺

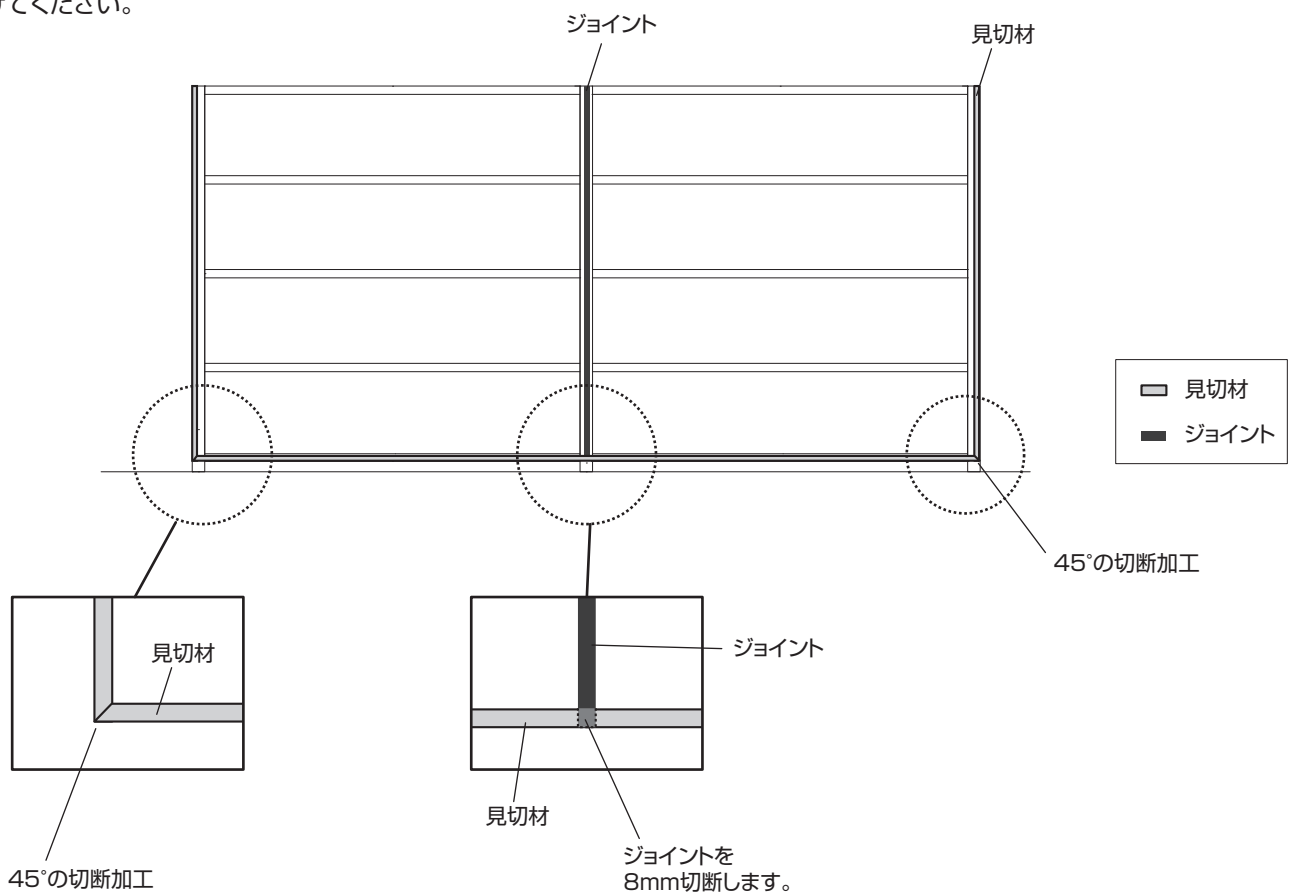
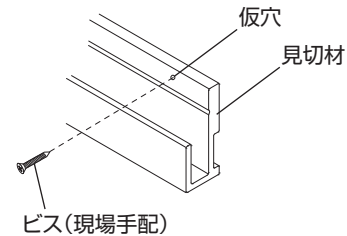
※**胴縁**は地面に対して平行に配置してください。
※高さ900mmに対して3本、1800mmに対して5本の**胴縁**を配置してください。

横向きボードの場合

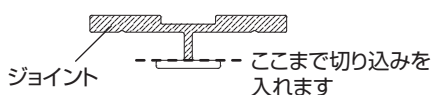
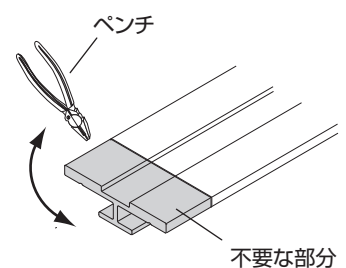
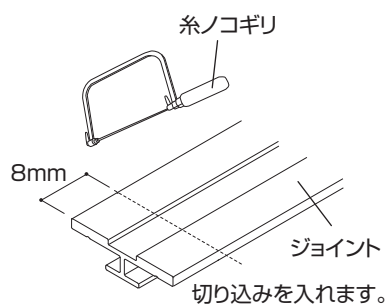
琉川、ランダムストーン、縦向きボードを横向きで使う場合

※**胴縁**は地面に対して垂直に配置してください。
※幅1800mmに対して5本の**胴縁**を配置してください。
※柱横にも**胴縁**を1本入れてください。

組立・施工（フェンスの場合）

❹ 見切材とジョイントの取り付け

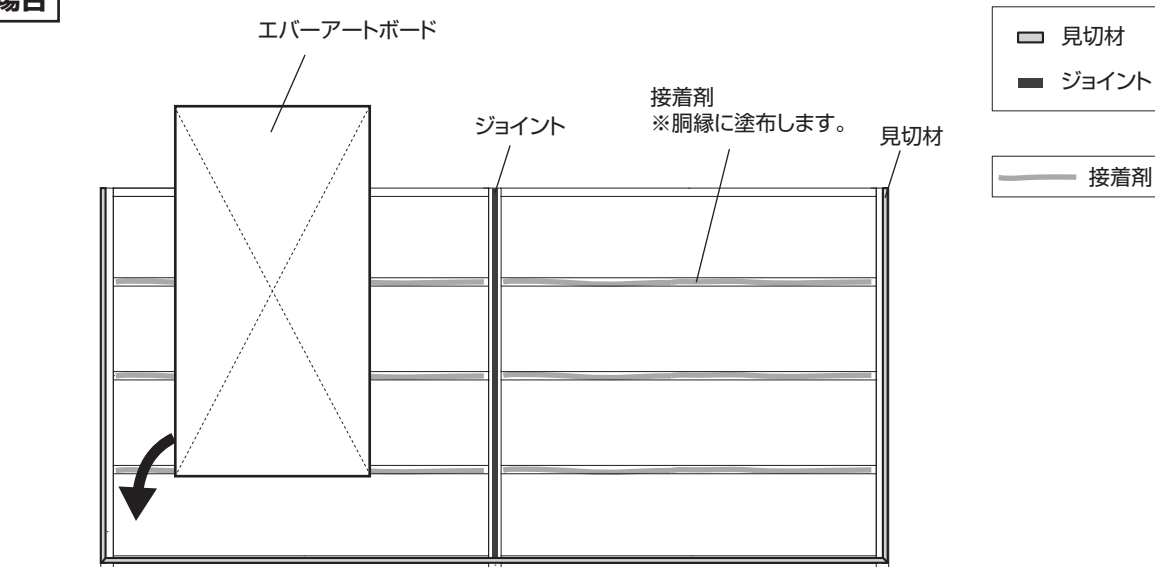
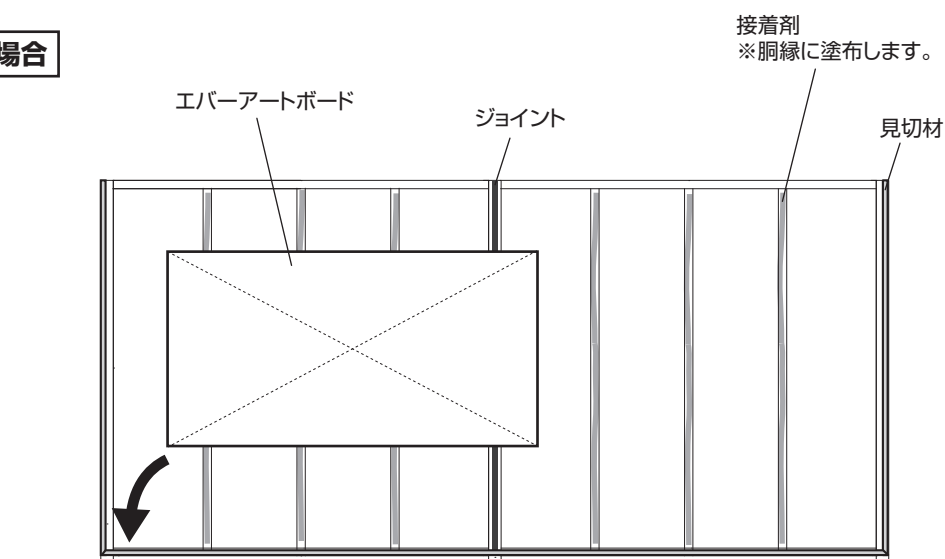
柱の両端と胴縁下部に**見切材**を、ボードの接続部に**ジョイント**を取り付けます。

※見切材が交わる部分は45°の切断加工が必要です。
※見切材とジョイントの接続部が加工が必要です。
※見切材、ジョイントは小さいので、加工には十分注意してください。
※図は縦向きボードの場合です。横向きボードも同様に取り付けてください。

●ジョイントの切断方法

①**ジョイント**の裏面から表面に向かって、糸ノコギリ切り込みを入れます。

②不要な部分をペンチでつかみ、数回ひねって、折ります。

組立・施工（フェンスの場合）

❺ エバーアートボードの取り付け（1枚目）

①**胴縁**に**接着剤**を塗ります。
※ボードを取り付けた際に、ボードからはみ出さない程度に塗ります。
②柱の両端と胴縁下部に**見切材**と**ジョイント**の溝に**エバーアートボード**を落としこみます。

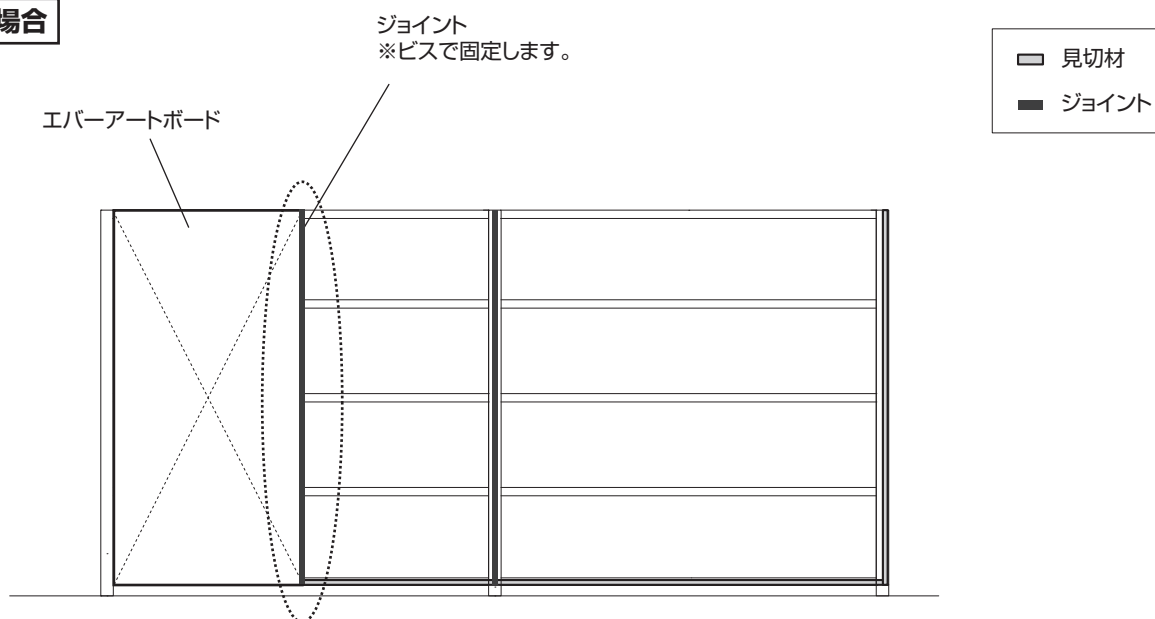
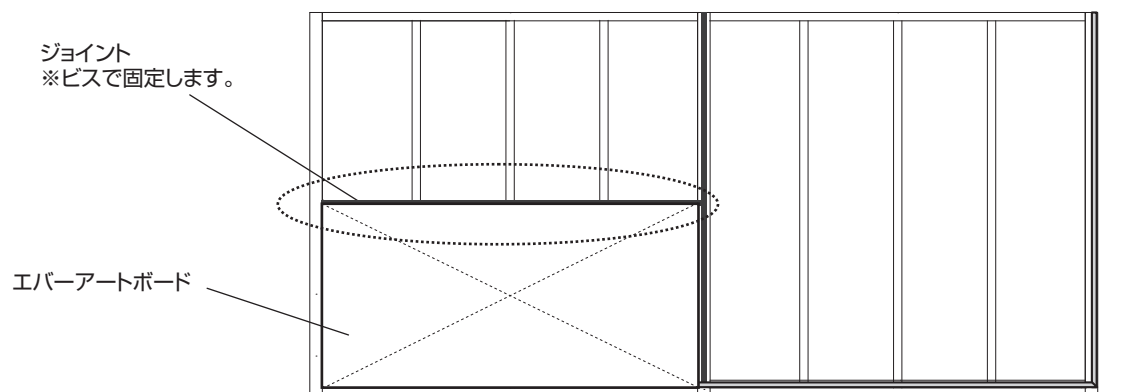
縦向きボードの場合

横向きボードの場合

組立・施工（フェンスの場合）

❻ ジョイントの取り付け（1枚目）

エバーアートボードに**ジョイント**を取り付けます。
※**ジョイント**端部の加工（P.16「ジョイントの切断方法」参照）をあらかじめ行っておきます。
※ビス穴は皿加工をしてください。皿加工が不十分だとボードがうまく入りません。

組立・施工（フェンスの場合）

❼ エバーアートボードの取り付け（2枚目〜）

❺と❻を繰り返します。

❽ エバーアートボードの取り付け（両面貼りの場合）

両面貼りの場合、片面を貼り終わった後、反対側も❺、❻、❼を繰り返し、**エバーアートボード**を取り付けます

❾ 端部の納まり

エバーアートボード端部に**見切材ロング**を取り付けます。